

4. 親杭パネル壁工法

親杭パネル壁工法とは

親杭パネル壁工法は、「できるだけ環境にやさしい擁壁を構築するためには？」を基本コンセプトとしています。

この工法は、親杭とコンクリートパネル（親杭パネル）を一体化した壁体で、景観を配慮した土留壁や遮音壁等に使用します。特に長大切土法面や基礎掘削が多くなる急峻地形での道路や敷地の拡幅工事等において、切土や残土の発生を少なくできることから自然環境の保護や省力化に役立つ工法です。また、グラウンドアンカー工法やタイロッド工法との併用により、壁高の高い擁壁の構築も可能です。さらに、親杭パネルの表面に様々な景観化粧を施すことができます。

技術審査証の取得

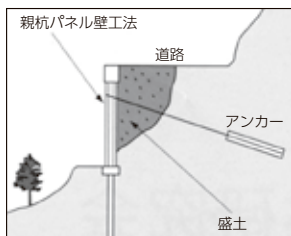
平成12年2月、(財)土木研究センターから、山留め式擁壁「親杭パネル壁」で、技術審査証(技審証第1212号)を取得しました。

工法の特長

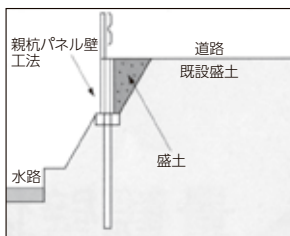
- 1** 大規模な掘削を必要としない。
- 2** 現場条件に合わせた施工方法を選択することができる。
- 3** 各種アンカー工法との併用により、高い壁面を構築できる。
- 4** 背面の盛土材に、発生残土や軽量盛土材が使用できる。
- 5** 景観を配慮した背面化粧ができる。

主な用途

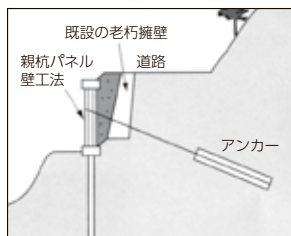
●急峻地形での道路拡幅



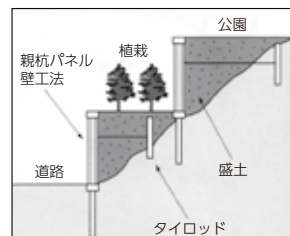
●切・盛土での道路拡幅



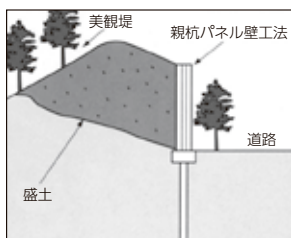
●既設の老朽擁壁の補強



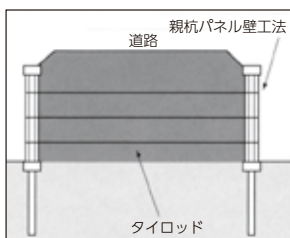
●斜面での植栽棚



●景観に配慮した遮音壁



●平面上に建造する構造物



■施工例



東京都八王子市



愛知県名古屋市



[JH 美濃関 JCT] 岐阜県関市

資料提供

: 日本コンクリート工業(株)